

# 川崎で子育て

～外国出身保護者の座談会～



「子育てに悩みはつきもの」と言われますが、自分の育った環境と異なる場所での子育てとなると、特に難しく感じることや悩むことが多いと思います。

川崎市内で子育てをしている4名の外国人市民の皆さんに、体験や意見をうかがいました。皆さんの話や感じていることから、日本人にも得られるヒントが多いはずです。

## Q子育てで工夫していること、気をつけていることは？

(日本で育てている子どもに、自分の母文化、母国語を伝えるために工夫していることなど)

**キム**：最初はわからないことがたくさんありましたが、おかげさまで息子は今春高校生になりました。私はまず、ハングルを教えることと、のびのび育てよう心がけました。これからも、自分の夢を見つけれられるようにサポートしていきたいです。



キム ヨンヒ  
**金 良嬉**

韓国出身 来日18年  
息子16才

**マラルゴ**：主人もモンゴル出身なので、モンゴルの言葉や文化を伝えたいです。日本で暮らしながら「モンゴル人ということ」を理解させる

ことは難しいですが、アイデンティティの確立は後々、大切ですから…バイリンガルについての本も参考に、強制するのではなく、自分から興味を持てるようモンゴルの歌を歌ったりしています。また、子どもの前ではモンゴルに関して批判的な話はしないようにしています。これからは同じような環境の、外国につながりを持つ友だちをたくさん作れるようにしてあげたいですね。

**ソニエ**：私の日本語力より、息子のフランス語力の方が速く上達したのはラッキーでした。電車や釣りなど、息子が興味を持っているものについて、フランスと比較しながら教えるようにしています。フランスは多民族国家ですから、多民族・多文化理解を促すようにしています。今はインターネットで情報収集ができるのでいいですね。それから、私も息子もスポーツが大好きで、共通の趣味を大切にしています

**サイ**：中国語と日本語の両方の絵本を読み聞かせるようにしています。日本語の絵本は私の日本語の勉強にもなっています。また、LINEなど無料のインターネットアプリなどを使って、台湾の家族と電話で話したり、台湾の歌と一緒に歌ったりして交流しています。



サイ イーツン  
**蔡 怡甄**

台湾出身 来日1年  
息子1才9カ月

## Q川崎で子育てをしてよかったこと、日本(川崎)で子育てをして難しいと感じたことは？

**キム**：韓国は学歴社会でプレッシャーがとても強いので、高校入試や将来に関して、子どもの意思や希望を重視して伸ばしてくれる日本の教育を受けられたことはよかったと思います。家で一生懸命教えたので、息子は日韓のバイリンガルになりましたが、息子が小さいころは「ことばの問題」が特に大変でした。家では韓国・朝鮮語、家を出ると日本語の生活だったので、子どもが混乱したり、「どうしてママはハングルを話すの？」といった幼い子どもにはまだ説明しきれない部分で悩みました。また、日本の学校生活を私自身が経験していないので戸惑うことが多く、かなり努力しましたが、学校からのプリン

トや行事、部活、お弁当のことなど、日本人の保護者からたくさん教えてもらって助かりました。

**マラルゴー**：妊娠中や出産、子育て中の医療や福祉環境は、モンゴルより充実しています。川崎市は、区役所の対応などが外国人にも親切で丁寧ですね。しかし、日本では個人の思いやりがうまく機能していない気がします。都心の電車では、妊娠中や子連れだと、肩身のせまい経験をしました。モンゴルでは銀行での順番待ちや席など、どこでもみんな妊婦を優先します。妊娠中から赤ちゃんがみんなに愛されているという実感は、出産後も社会や隣人が子育てを支えてくれるという安心感につながります。

の計算の仕方が違うので宿題を教えられません。フランスの良いパパは宿題を教えるんですよ（笑）。

**サイ**：川崎市国際交流協会の日本語講座には保育がついているし、市民館などでの子育てサロンやイベントも充実していて助かります。ただ、病院に行くときは日本語の心配があります。小児科でも先生が忙しすぎるせいか、診察や対応が冷たく感じる時があり不安になります。子どもや自分が病気で不安を感じているときやしんどいときは、そういう体験が本当につらく感じられます。



**リシャル・ソニエ**  
フランス出身 来日4年  
息子8才

**子育ての上で、家族以外からサポートしてもらって助かったことは？  
(あると助かること)**

**キム**：息子がまだ小さいころ（16年前）は、子どもと一緒に日本語を勉強する場所や子育てサロンなども少なかったのですが、できる場所を見つけられたので良かったです。これからはもっとグローバル化が大切だと思うので、いろいろな場面で子どもたちの相互理解をサポートする教育の機会があるとよいと思います。

ティーのためにも、バイリンガル親子の集まりがもっとあるといいですね。

**ソニエ**：スイミングプールやテニスコートなど、地域の公共スポーツ施設がもっとあると、家族と一緒に楽しめると思います。

**サイ**：今のことで手いっぱいであまり考えられないけれど、マラルゴーさんと同じように、不安が解消されるような集まりがあるといいと思います。

皆さん、ありがとうございました。

(取材・文：編集ボランティア 青柳尚子)



**ダシドーロヴ・マラルゴー**  
モンゴル出身 来日8年  
娘5才

**ソニエ**：とにかく、日本は安全ということが一番。フランスでは小学生が子ども1人で通学することはありえません。川崎で子育てをしてよかったことのひとつは、「川崎フロンターレ」です。「フロンターレ」のような強いサッカーチームがある町で子育てできるのは素晴らしいです。難しいというか残念なことは、勉強についてですね。フランスと日本では、算数

**マラルゴー**：子育て支援センターや0～2才の子ども対象のイベントや子育てサロンは多いのですが、3才を過ぎると対象外になったり、周りの子どもたちと年齢層が合わなくなってしまっ…。

保育園では保護者もみんな忙しく、ゆっくり話をする機会もないので情報収集ができず、就学準備についても不安です。子どものアイデンティ



▲日本とフランスの計算(算数)の違いを説明するソニエさん

**(公財)川崎市国際交流協会は、今年度より新事業を開催します！**

「外国につながりを持つ子どもの宿題支援」…9月から毎週土曜日午後(予定)

「外国につながりを持つ子どもの保護者向け、公立小学校入学説明会(多言語通訳つき)」

…2017(平成29)年1月(予定)